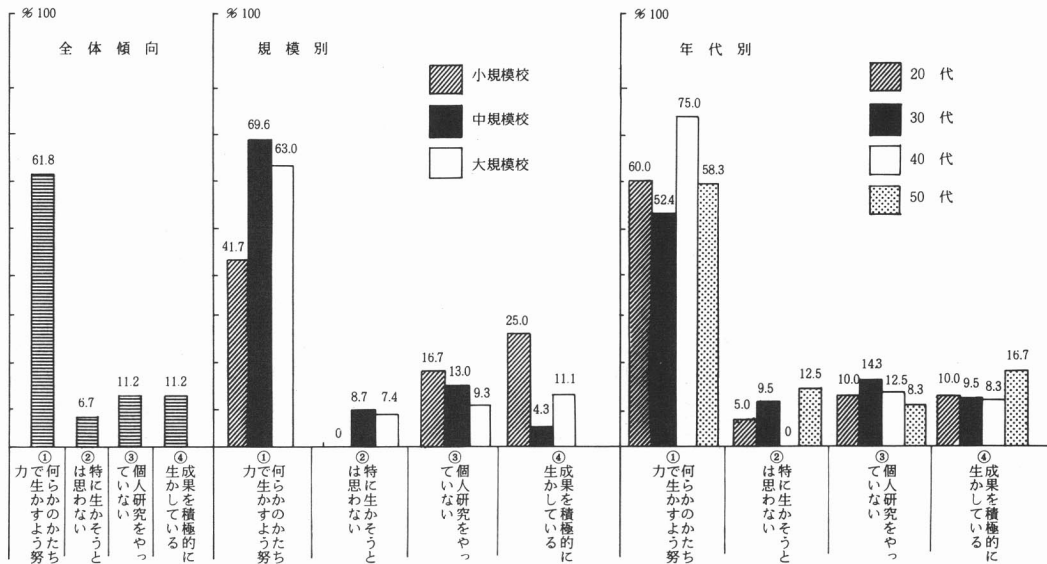


個人研究の成果活用意欲・態度

問19 あなたは、個人研究の成果を校内研究に生かしていますか。

図-24

N = 89



〈考察〉

全体傾向から見ると、①の「個人研究の成果をなんらかのかたちで……」が約62%であり、④の「……成果を積極的に生かしている。」の約11%を合わせると73%にもなり、多くの教師は個人研究を積んでいることがうかがわれるが、④が約11%と少数であることから考えると個人研究の成果が校内研究に十分に生かされている現状ではないとみることができよう。③の「個人研究をやっていない……」が約11%もあり、研究の必要性から言えば問題であろう。②の「……特に生かそうと思わない。」が約7%あることは、個人研究の内容と校内研究の内容との関連性が薄いためではなからうか。規模別から見ると、④が小規模校でさえも約25%程度であることは、意識は低いとみることができよう。③からは規模が小さくなるほど個人研究をしていない教師が多くなっていること

が分かる。年代別に見ると、①は30代が低い。④は全体的に低く、高いところの50代でも約17%にとどまっている。③は研究をしていない教師が各年代とも約8～14%であり、中でも30代に多く、この項目では全体的に30代の教師の意欲が不足しているとみることができよう。

これらの問題点の要因としては、校内研究が規模の特性に応じたものになっていないためではないか。個人研究の必要性の認識が不十分なのではないか。校内研究を深めるための個人研究の重要性がよく理解されていないためではないか。等が考えられる。したがって、改善の方向としては、  
 ○ 校内研究に関わるリーダーの立場の教師の積極的な推進。  
 ○ 校内研究の目標、分担などの再検討。  
 ○ 定期的な検討会を持ち自己啓発を図る配慮。  
 ○ 個人研究の必要性を認識させること。  
 等が考えられよう。